

# グリーン化事例 2：小田原市立総合医療センター



## 1. 施設概要

**所在地：**神奈川県小田原市久野46（JR小田原駅より徒歩1.6km、公共交通機関で7分）

**運営主体：**小田原市

**施設認定・指定：**地域医療支援病院、救命救急センター（三次救急）、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、災害拠点病院、管理型臨床研修病院など

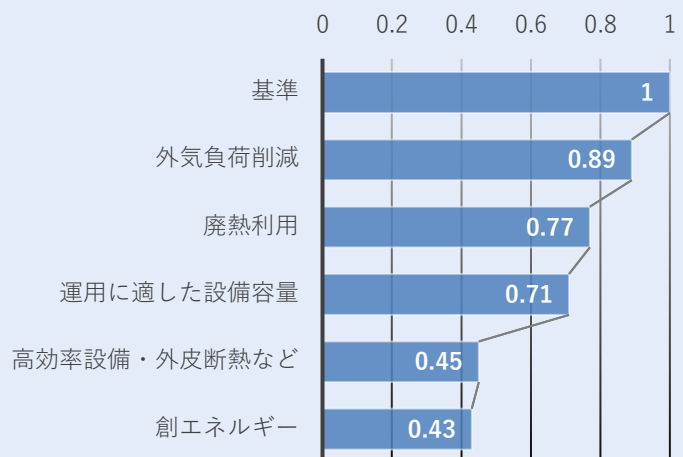
1951年、人口10万人以上の都市の中でも全国に先駆けて国民健康保険制度（国保）を施行した小田原市が、その国保制度を支え、市民に対し医療を安定的に提供する公的基幹病院として1958年に開設（9診療科、110床）。1985年に全面改築し、現施設が完成（417床、改装時15診療科、現在28診療科）。

	現病院	新病院
完成時期	1985年3月	2026年2月予定
許可病床数	417床	406床
診療科数	28科	30科
敷地面積	21,968.78 m <sup>2</sup>	23,021.60 m <sup>2</sup>
建築面積	6,192.52 m <sup>2</sup>	6,911.09 m <sup>2</sup>
延床面積	25,026.26 m <sup>2</sup>	42,234.16 m <sup>2</sup>
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地上7階・地下1階	免震構造・鉄骨造 地上9階 41.243m
1病床あたり面積	約60m <sup>2</sup>	約104m <sup>2</sup>

## 2. グリーン化のための導入設備

分野	導入技術
外気負荷削減（換気）	夜間モード切り替えによる病室換気の適正化 CO2センサーによる換気量制御
廃熱利用（空調）	水熱源ヒートポンプ（廃熱利用） 熱回収ヒートポンプ（廃冷水利用）
運転効率の良い設備（換気・空調）	運用に適した空調・換気の設備容量の設定
高効率化・外皮負荷軽減	高効率空調、高効率照明 屋上緑化、Low-Eペアガラス、日射遮蔽
創エネルギー	マイクロジェネレーション 太陽光発電

### 建築物エネルギー消費性能指標：BEI値



# グリーン化事例 2：小田原市立総合医療センター

## 3. 導入計画と実施概要

築40年を迎えるにあたり、建物・設備の老朽化・狭あい化への対応、事業継続、人材確保の点で、建て替えは必須であった。

2014年2月 小田原市立病院運営審議会から早期建替の必要性が示される

2018年12月 「小田原市立病院再整備基本構想」策定

2020年12月 「小田原市新病院建設基本計画」策定

2021年4月 設計・施工一括発注公募

2021年11月 事業者と「小田原市新病院建設事業に係る基本協定書」締結

2022年11月 小田原市が環境省脱炭素先行地域に選定される

2022年12月 基本設計完了

2023年9月 工事費見直し

設計段階で、円安や原料・原油、物流コストの高騰による資材費の上昇、賃金上昇や人材不足による労務費の上昇により追加工費（約96億円）が発生するも、市場における建築単価と比較しても割安である（約62.9万円/㎡）ことで理解を得る。

2023年12月 実施設計完了・工事請負契約締結

2024年1月 起工式、着工

2024年7月 工事請負変更契約（1回目）

建設コスト高騰による工費見直し（約16.8億円）が必要となる。新たな財源として県立病院機能集約事業費補助金（2024年度 約0.5億円）を充当。

2024年8月 設計段階でのZEB Ready認証取得

2024年12月 工事請負変更契約（2回目）

2024年7月以降の残工事についてインフレスライド条項\*が適用され工事請負額が増額（約5.2億円）。併せて財源の一部であった機能集約事業補助金も増額。

2025年10月 工事請負変更契約（3回目）

同様に、2024年3月以降の残工事について、請負額を約8億円増額、機能集約事業補助金も増額。

2026年2月 新病院竣工予定  
第二期工事へ移行（現病院解体工事、外構・立体駐車場建設工事ほか予定）

2016年から、経営コンサルの導入と病院トップのリーダーシップにより、**医療従事者や事務部門とのヒアリング**を実施し経営改善が図られる。以降、良好な経営を継続。新型コロナウイルス流行によって危機的状況に陥るも、病院一丸となって対策して乗り切る。

基本計画策定時から、**コンストラクション・マネジメント（CM）業者**による支援を実施し、担当職員の病院建設事業にかかる知見の補強と人員不足を補完。

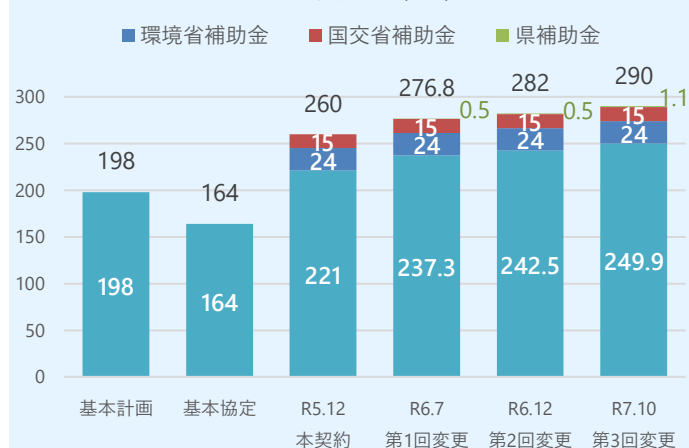
計画から竣工までの間に生じうる、法制度や技術革新等の社会環境の変化に柔軟に対応するため、**設計・施工一括（DB: Design-Build）**発注。

進行中の小田原市都市再生整備計画（小田原駅周辺地区）の都市機能増進施設として、国土交通省都市構造再編集中支援事業補助金の重点対象となり、15億円を調達。

**市民の環境意識、行動変容を促すこと**を目的に、脱炭素先行地域の主要事業として位置付け。環境省「地域脱炭素移行・再エネ推進交付金」を活用（見込額24億円）。開院後は、地産を含む再エネ電力利用により電力消費に伴うCO<sub>2</sub>排出実質ゼロを達成予定。

基本計画、基本設計、実施設計、施工の**各段階において、病院側とヒアリングセッション**を持ち、現場サイドの意見を随時反映した。病院側37部門と、1回2時間程度のセッションを、各段階4-6回実施した。

工事費変遷(億円)



\*インフレスライド条項：工事請負契約書第26条第6項等で定める、工事期間中に予期せぬ急激な物価変動に対応するため、発注者と受注者の協議の上、契約金額を変更できる制度

## 学びとメッセージ

健全な経営と組織文化を背景に、所属する医療圏の都市計画や地域脱炭素の方針、医療政策と方向性を揃えることで、多様な補助金を調達することができた。CMの導入により計画の上流部分から要望を具体化し、DB方式の採用によって、現場の声を丁寧に聞き取りながら、社会環境の変化や工事状況に応じた柔軟な対応が可能となった。高騰する建設コストには、市民・議会・関係部署への丁寧な説明と緻密な合意形成で対応した。